

熊谷市教育委員会

1 研究主題

「生きる力」と「学び」の基礎の育成

～発達や学びの連続性を踏まえた幼・保・小連携体制～

2 ねらい

- 「熊谷市幼・保・小連絡協議会」を核とした幼・保・小連携を推進し、滑らかな接続を図る。
- 幼・保・小教職員合同研修会や、「熊谷市幼・保・小連携個票」を効果的に活用することにより、幼児教育の成果を小学校に引き継ぐ。

3 本市における各学校等の設置状況（平成22年4月1日現在）

	幼稚園			保育所			小学校
	市立	私立	合計	市立	私立	合計	市立
施設数	2	14	16	13	22	35	29
幼児・児童数	99	2,775	2,874	887	2,315	3,202	10,868
教職員数	10	208	218	115	253	368	639

4 幼・保・小連携のための組織

(1) 「熊谷市幼・保・小連絡協議会」組織図

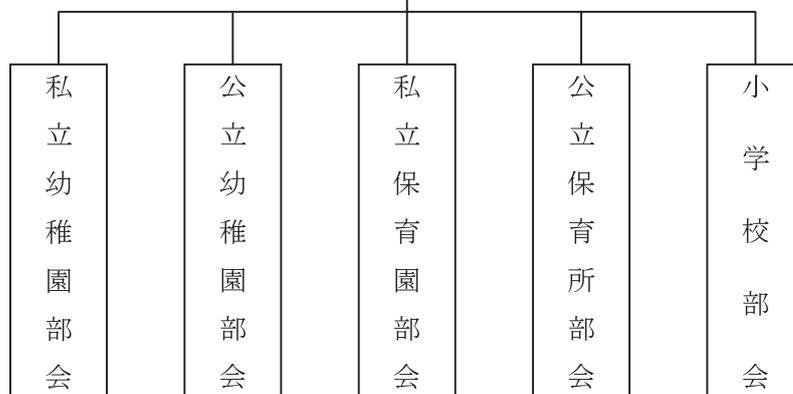
会長	1名
副会長	2名
幹事	4名
(指導主事・保育課副課長等)	

幼・保・小連絡協議会
会長

幼・保・小連絡協議会
委員・幹事

(2) 構成部員

<ul style="list-style-type: none"> ・私立幼稚園部会長 ・公立幼稚園部会長 ・私立保育園部会長 ・公立保育所部会長 ・小学校部会長 <li style="padding-left: 20px;">(小学校長会長) ・学校教育課長 ・保育課長 ・幹事(教育委員会・保育課)



5部会とも、会長が中心となり部会を定期的を開催している。

(3) 「熊谷市幼・保・小連絡会」参加団体数

- ・小学校 29校
 - ・公立幼稚園 2園
 - ・私立幼稚園 14園
 - ・公立保育所 13所
 - ・私立保育園 22園
- 計 80 団体（市内のすべての幼・保・小から参加）

5 事業の年間計画

(1) 「熊谷市幼・保・小連絡会」活動計画

幼・保・小教職員の合同研修会（学校間連携を図るための研修会）年3回実施

第1回 平成22年6月30日

- ・今年度の幼・保・小連携の在り方、具体的な取組と今後の方向性（教育委員会指導主事）
- ・地区別情報交換（6ブロック）
テーマ「小学校就学前（幼児期終了）までにこれだけは身に付けさせたいこと」

第2回 平成22年8月30日

- ・交流活動についての事例発表（2事例）
「吉岡小学校」と「吉岡幼稚園」, 「大幡小学校」と「なでしこ保育園」
- ・地区別情報交換（6ブロック）
テーマ「幼児・児童の交流を深めるために今できること」

第3回 平成23年2月16日

- ・「巡回相談と望ましい幼・保・小連携の在り方」講演 講師 立教大学 大石幸二先生
- ・地区別情報交換（6ブロック）テーマ「指導要録・保育要録、連携個票の活用」
- ・フリーの情報交換

(2) 「熊谷市幼・保・小連絡協議会」活動計画

第1回 平成22年6月24日

- ・平成22年度の組織（会長・副会長選出）
- ・平成21年度熊谷市幼・保・小連携推進事業の報告
- ・平成22年度連携推進事業の計画（今後の方向性）

第2回 平成22年11月24日

- ・第1回、第2回合同研修会の報告
- ・平成22年度交流活動について（アンケート結果の考察及び意見交換）
- ・指導をつなぐ「熊谷市幼・保・小連携個票」の実施について

第3回 平成23年3月28日

- ・平成22年度のまとめ
- ・平成23年度に向けての情報交換（今年度の取組について成果と課題）



個々の幼児・児童の情報交換

6 研究の具体的な取組

(1) 教職員の積極的な交流

ア 教育委員会主催の幼・保・小合同研修会 3回実施。立教大学 大石幸二先生の講演会

イ 地区別情報交換会及び個々の幼児・児童の情報交換。
積極的な意見交換により、発達や学びの連続性を互いに確認しあうとともに共通理解を深める。

ウ 吉岡小学区や大幡小学区等の連携事例を紹介し、教職員同士及び幼児・児童の交流を広めていく。

エ 幼・保・小連携に関する調査・研究部員（熊谷市研究協力員）によるアンケート実施、集計

※小学校就学前（幼児期終了）までにこれだけは身に付けさせたいこと

※「幼・保・小連携に関する調査・研究」幼保小連携推進パンフレットの作成・配布



合同研修会

(2) 指導をつなぐ「熊谷市幼・保・小連携個票」の活用

ア 臨床心理士による巡回相談（配慮を要する幼児への継続的な助言と支援方法の伝達）

イ 幼稚園・保育所（園）から小学校へ、適切な支援方法等の情報提供（上記の助言等）
～小学校への引き継ぎとして～

「幼稚園幼児指導要録」「保育所児童保育要録」の効果的な活用を図るとともに、気になる幼児について「熊谷市幼・保・小連携個票」を作成し、小学校へ送付する。

ウ 保育課と連携し、保育所長会議・私立の保育園長会議や、年長クラスの担任等の研修会に指導主事が参加して、本市における幼・保・小連携の取組及び「熊谷市幼・保・小連携個票」送付について説明し実施した。各私立幼稚園長へも資料を配付し理解を求めた。

(3) 小学校の校務分掌に「幼・保・小連携担当」を設置

ア 校長会・教頭会で、平成23年度から「幼・保・小連携担当」を置くよう依頼した。

イ 小学校長会で、小学校長会長（熊谷市幼・保・小連絡協議会の小学校部会長）から提案した。

(4) 家庭・地域との連携による基本的生活習慣の確立

【熊谷教育のアクセルとブレーキ】

「生きる力」と「学び」の基礎を育成するため、「熊谷の子どもたちは、これができる！」4つの実践と3減運動の定着を図る。このことは、小さい頃から、大人が手本となって実践していけるよう、幼稚園・保育所・学校・家庭・地域が一体となった熊谷市の取組である。

○ 4つの実践

- 1 朝ごはんをしっかり食べる。
- 2 呼ばれたら「はい」と元気よく返事をする。
- 3 「ありがとう」「ごめんなさい」という。
- 4 友だちをたくさんつくる。

○ 3減運動

- 1 テレビの時間を減らします。
- 2 ゲームの時間を減らします。
- 3 携帯電話やインターネットに触れる時間を減らします。

※家族との会話、予習復習の時間、読書の時間を増やし、学力を高める取組である。

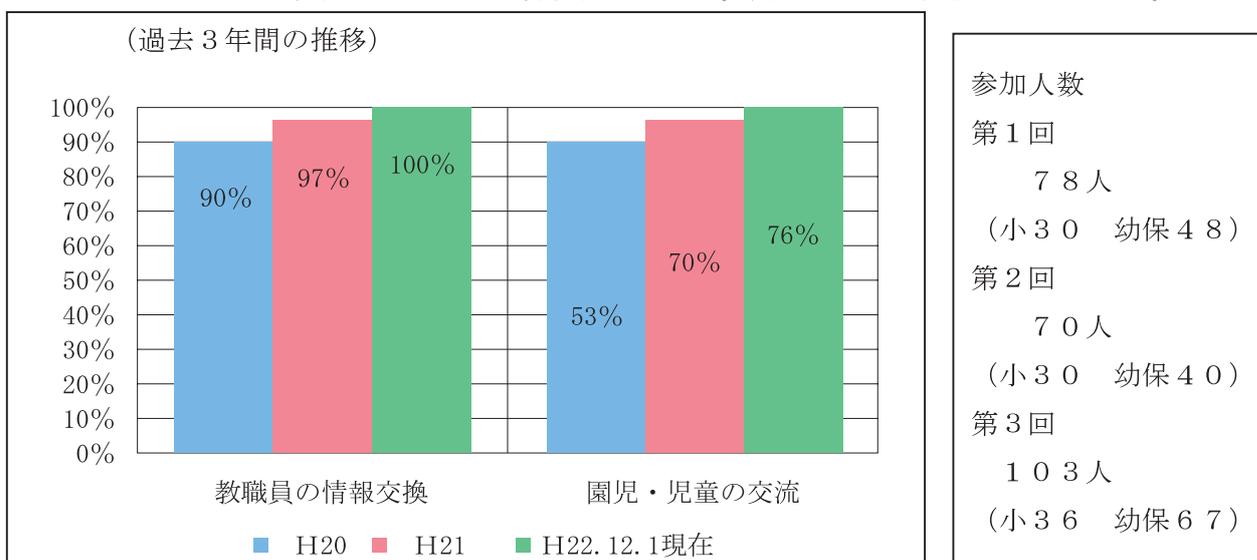


「熊谷の子どもたちは、これができます！」

6 成果と課題

(1) 成果

- 教育委員会が中心となり、幼・保・小合同研修会を年3回実施したことにより、職員同士が互いに顔見知りになり、以下のように連携状況が進んだ。園児・児童の交流も進んでいる。



- 合同研修会では、管理職の参加も増加し、幼・保・小それぞれの立場から「幼・保・小連携の重要性」について再認識することができた。今後も幼・保・小合同研修会を定期的の実施してほしいという要望も多く、幼・保・小連絡会の充実が市内の連携体制づくりに大いに効果があった。
- 各小学校が、「幼稚園幼児指導要録」「保育所児童保育要録」の出身別送付一覧表を作成することにより、小学校就学後の連絡も取りやすくなり、効果的な活用を図ることができる。この一覧表の見本を研修会で紹介し、広めることができた。
- 小学校への引き継ぎ事項として、各小学校が「熊谷市幼・保・小連携個票」を活用することにより、巡回相談による助言及び支援方法等について、継続的な支援が可能となる。また、情報交換会での引き継いだ内容を年度ごとにまとめ、次の学年に引き継ぐ際に漏れがなくなる。
- 熊谷市幼・保・小連絡協議会の組織を活用して、指導をつなぐ幼保小連携個票の実施に向けた協力体制がとれた。周知方法として、第一に公立の保育所、次に私立保育園、その後、私立幼稚園と、指導主事が各会議に参加し、説明することで理解を得ることができた。

(2) 課題

- 「熊谷市幼・保・小連絡会及び学校間連携を図るための研修会」において、校長・園長・所長等の管理職を対象とした研修会が必要である。
- 教育課程上の接続が大きな課題である。スタートカリキュラムの具体例を研修会等で広めて周知していく。
- 来年度の校務分掌に「幼・保・小連携担当」をおくことにより、授業参観等の案内状の送付や、交流を教育課程に位置付けるなど、組織として計画的・継続的に実施しやすくなる。
- 幼稚園・保育所(園)・認定こども園から一人だけ、小学校に就学するようなケースでも、必ず情報交換等の連携が図れるよう、学校側の配慮を呼びかけていく。
- 教育委員会と保育課が連携し、「幼稚園幼児指導要録」「保育所児童保育要録」「熊谷市幼・保・小連携個票」が効果的に活用されているか、確認していくことが必要である。